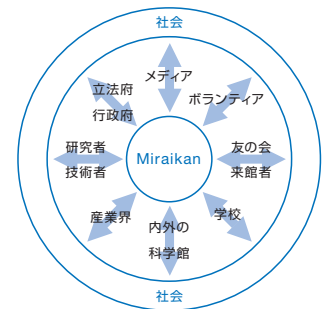


3. つながりをつくる 8つのネットワーク ①

内外の科学館、学校、ボランティア、友の会・来館者、研究者・技術者、産業界、メディア、立法府・行政の8つを、未来館の活動と社会をつなぐインターフェースとして捉え、ネットワークの構築に努めています。



■内外の科学館とのつながり

国内外の科学館ネットワークを活用し効果的な情報発信に努めています。2011年度は、特に東日本大震災を受けて、国際的な科学館コミュニティに向けて自然災害等の有事における科学館の役割について問題提起するなど、積極的に発信しました。

▶国内の科学館

・「全国科学館連携協議会」事務局

全国の科学館等182館が加盟する全国科学館連携協議会の事務局として、以下の活動を推進しました。

総会・幹事会（2011年6月27日(月)） 37団体48名出席

国内研修（2012年1月22日(日)、23日(月)） 20館38名参加

基調講演「東日本大震災後における科学館・博物館の役割」（講師：渡辺政隆、筑波大学広報室教授）、加盟館による事例紹介、ポスターセッション、ワークショップ（東日本大震災後の科学館・博物館の活動において、連携協が果たすべき役割をディスカッション）を行った。

海外研修（2012年2月23日(木)～29日(水)） 8館12名参加

訪問先：オーストラリア国立科学館「クエスタコン」、CPAS（科学意識向上センター）、巡回科学教室「サイエンスサーカス」視察、など

パネル展巡回コーディネーター

研究機関などと連携し、全国の科学館などで利用できるパネル展などの巡回調整（パネル展のべ22件、のべ81館へ巡回及びデータ提供）を行いました。

【協力機関】独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人防災科学研究所、千葉市科学館

・先進的 science 館連携推進事業

全国各地に最先端の科学技術やその社会・将来との関係性をわかりやすく伝え考える場が構築されることを目指して、最先端の科学技術という新しい知を社会とつなぐ新たな科学コミュニケーション活動に挑戦し、地域の拠点として活動しうる科学館の取組みを支援しました。

2010年度採択館：静岡科学館る・く・る、千葉市科学館

2011年度採択館：兵庫県立人と自然の博物館、島根県立三瓶自然館

・全国の科学館との連携活動

科学館職員研修(人材養成)への協力

静岡科学館独自の科学コミュニケーター人材養成プログラムの開発に資するため、未来館の科学コミュニケーター短期研修を静岡科学館職員向けに実施しました。

実施日：2011年6月5日(日)、13日(月)、19日(日)

また、日本科学未来館科学コミュニケーター研修プログラムへ全国の科学館職員5名を受け入れました。

実施日：2011年7月、10月

エネルギー問題に関する新規ワークショップの開発

エネルギー問題に関するワークショップを開発し、先進的 science 館連携推進事業採択館への展開（千葉市科学館、三瓶自然館における科学館職員向け講習）と、一般展開としてワークショップパッケージの提供を行いました（聖セシリア女子中学校・高等学校、北海道立オホーツク流氷化学センター）。千葉市科学館および三瓶自然館では、科学館職員講習をもとに一般向けワークショップが実施されました。

被災地での科学コミュニケーション活動のアレンジ

先進的 science 館連携推進の採択館にご協力いただき、東日本大震災の被災地における科学コミュニケーション活動を展開しました。

兵庫県立人と自然の博物館：もぐらんぴあ（2011年12月10日(土)）、

八戸市視聴覚センター・児童科学館（2011年12月25日(日)）

島根県立三瓶自然館：大槌町（2012年1月31日(火)、2月1日(水)）



国内研修の様子

（講師などの敬称略）

3. つながりをつくる 8つのネットワーク ②

▶ 海外機関(科学館等)との連携

・国際科学館ネットワークでの情報発信

東日本大震災を受けて未来館が取り組んだ科学コミュニケーション活動について、以下の国際会議で発信しました。

- ASPAC(アジア太平洋地域科学館協会) (2011年5月18日(水)~20日(金)、中国・広州)
- ECSITE(ヨーロッパ科学館ネットワーク) (2011年5月26日(木)~28日(土)、ポーランド・ワルシャワ)
- SCWC(科学館世界会議) (2011年9月4日(日)~8日(木)、南アフリカ共和国・ケープタウン)
- ASTC(科学技術館協会) (2011年10月15日(土)~18日(火)、アメリカ合衆国・メリーランド州)



ASPACでのセッションの様子

・「'おいしく、食べる'の科学展」の海外巡回

未来館オリジナルの企画展「おいしく、食べる」の科学展」を香港科学館へ貸出しました。12万人以上が来館し、現地のメディアにも多数取り上げられました。

- 会 期: 2011年10月14日(金)~2012年2月1日(水)
- 会 場: 香港科学館
- 参加者: 120,000人

■ 学校とのつながり

来館時の団体向けプログラムを整備し学習機会の充実を図るとともに、科学館や研究機関との連携プログラムのコーディネートなど、地域での自律的な科学コミュニケーションのネットワーク構築に資する取組みを推進しました。

▶ 団体向けプログラムの充実

学校などの団体から来館時の学習プログラムに対する要望が多かったことを受け、科学コミュニケーターによる実験教室やミニトークなどの団体向けプログラムを充実させました。

【団体プログラム受入れ実績】

- ・来館プログラム(展示されている先端科学技術について生徒同士で紹介しあうプログラム) (32件、2,394名)
- ・職場体験プログラム (5校31名)
- ・団体向け実験教室 (41校623名)
- ・団体向けミニトーク (26校1,671名)
- ・団体向けワークショップ (2校71名)
- ・訪問講義 (24校1,150名)



職場体験プログラム

▶ 教員研修への協力 (のべ3件164名)

教育委員会や理科部会が主催する教員研修の実施にあたり、未来館などの外部機関の活用についての議論や実験教室の体験、科学コミュニケーション活動の実践をととした協力を行いました。

▶ 連携のコーディネート

全国各地域における自律的な科学コミュニケーション活動に資する取り組みとして、高等学校と研究者や科学館等との連携をコーディネートしました(参加生徒22名)。

【1日目】@放射線医学総合研究所:

講義、施設見学、放射線測定実習(2011年11月9日(水))

【2日目】@千葉市科学館:

館内実習(来館プログラム)、館長講話(2011年11月19日(土))

【3日目】@日本科学未来館:

来館プログラム、グループディスカッション(2011年12月10日(土))



連携プログラム実施の様子

3. つながりをつくる 8つのネットワーク ③

■ ボランティアとのつながり

未来館のボランティアは、展示解説や実験教室の補助、イベントやツアーの企画・実施まで多様な活動を行っています。積極的なボランティア活動により、未来館の活動が拡充され、新たな来館者やリピーターが生まれています。

▶ ボランティア自主活動の企画・実施

・「ボランティアイベント」

ボランティアが一般の来館者向けに企画・実施する特別イベントを行いました。

「夏のボランティアイベント」

開催日：2011年7月30日(土)、31日(日)
会 場：日本科学未来館 7階 会議室1～3
参加者：1,307名(のべ)

「冬のボランティアイベント」

開催日：2011年12月23日(金・祝)、24(土)、2012年1月2日(月・祝)
会 場：日本科学未来館 3階サイエンスライブラリ、5階展示フロア
参加者：778名

・「研究棟ツアー」の新規開発

未来館の研究エリアに入居するプロジェクトの研究室を来館者に紹介するボランティア企画「研究棟ツアー」の新規プログラムを開発しました。

開始日：2011年6月4日(土)
参加者：計9,677名(702回実施)(既存プログラムも含めて全4ツアー合計)

・「ノーベルかがくショー」の新規プログラム開発

2010年にノーベル化学賞を受賞した鈴木章・根岸英一両博士の業績を紹介するトークショー「未来をつかむ化学の縁結び」を新規開発しました。

・理化学研究所 和光研究所の一般公開での活動

開催日：2011年4月23日(土)
会 場：南北会議室
内 容：実演「ノーベルかがくショー」と工作「導通チェッカー「トオル君」」
参加者：約200名

▶ 常設・企画展での活動の拡充

・企画展でのサポート

フロアでの解説だけでなく、ボランティアによるツアーや「はっけんラリー」の運営サポートなど、来館者へのサービス拡充に寄与しました。

・常設展示での活動の拡充

年3回の新人ボランティア研修をはじめ、解説分野拡大研修、スキルアップ研修を定期的で開催し、新人ボランティアの育成および個々のボランティアスキル向上と活動の満足度向上を図っています。2011年度はさらに工夫を重ね、前年度から開始した5階ガイドツアーの実施ボランティアを増員し、定常的なプログラムとすることができました。



理化学研究所一般公開



展示ガイドツアー

■ 友の会・来館者とのつながり

未来館では、未来館の活動に積極的に参加し、ともに科学を楽しむ友の会制度の充実を図っています。2011年度は以下のような活動に取り組みました。

▶ 会員制度の見直し

会員プランを年間パスポート利用層とイベント利用層に再構築することを決定しました。新制度の運用は2012年11月より開始予定です。

▶ 既存会員および入会者に向けた主な活動

- ・年会費の継続割引(2011年7月より)
- ・ミーサイニュースのWeb閲覧(2011年7月より)
- ・繁忙期の優先入館対応(2011年8月の6日間)

▶ 会員向けイベントの実施(開催数 101回(参加者:のべ 2,803名))

[主な会員向けイベント]

- ・実験教室「DNA鑑定」(計12回/160名参加)
- ・「サイエンスカフェ ～みらい倶楽部～」(計8回/320名参加)
- ・「リアル・ラボ」(計7回/153名参加)
- ・新展示のモニターや内覧イベント(計4回/約300名参加)



会員向け実験教室



サイエンスカフェ ～みらい倶楽部～

3. つながりをつくる 8つのネットワーク ④

■研究者・技術者とのつながり

展示やイベントなどの企画開発に際して、現在活躍している研究者や技術者と連携することで、先端の科学技術に関する情報を社会に発信し、一般の方と研究者が交流する拠点としての役割を担っています。2011年度は241名の研究者に、展示活動やイベントなどを通して協力いただきました。

▶MOU(Memorandum of Understanding)

2011年度は、千葉工業大学、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所臨海副都心センターなどとMOUを継続し、展示活動などで連携を推進しました。

▶特別展示制作協力

「世界化学年」(2011年)にあわせて、公益社団法人日本化学会の主催のもと、特別展示「きみたちの魔法ー化学「新」発見」の制作に協力し、一般社団法人日本化学工業協会とともに共催しました。

会 期:2011年11月19日(土)~27日(日)

会 場:日本科学未来館 7階 イノベーションホール

参加者:6,835名

※制作した展示は、被災地支援として2012年3月18日~20日に岩手県大槌町山城公民館に巡回しました(P3参照)。さらに2012年度は全国科学館連携協議会を通じて全国の科学館への巡回を計画中です。

※詳細はP12参照。

▶研究エリア入居プロジェクトとの連携

科学館の中に研究施設が併設されているという特色を活かして、来館者と研究者のコミュニケーション機会を積極的に展開しています。

・2011年度の新規入居プロジェクト

「ナノ格子制御プロジェクト」

研究者:一木正聡(独立行政法人産業技術総合研究所集積マイクロシステム研究センター)

・ボランティアによる「研究棟ツアー」

毎月4回、ボランティアによる一般来館者向けの研究棟ツアーを開催しています。

■産業界とのつながり

一般社会とつながりの深い産業界との協力関係を構築することで、科学技術と社会とのコミュニケーションの活性化を図っています。

▶学生復興会議

震災により被害を受けた地域の高校生が街のシンボルとなる施設を考える事をおして、自ら街の将来へ積極的に関わる意欲を高めてもらうことを目的に、株式会社リコーと協力して熟議型の科学コミュニケーション活動を実施しました。被災地の高校生が復興に向けての「まちづくり」を考え、その実現を目指すプログラムで、地元の将来を担っていく岩手県立高田高等学校の生徒がプログラムに参加しました。テーマは“陸前高田の象徴として誇れ、また地元の人や訪れた人の間に交流が生まれるシンボル施設を考えよう”。最後に、建物の仕様書、その建物を使用したときのイメージを伝える再現シーンの寸劇をもって市長にプレゼンテーションしました。生徒たちは建築家が描いたイラストと、自ら考えた即興の劇で各々の施設を市長にアピールしました。

開催日:2011年8月6日(土)

会 場:岩手県陸前高田市第三仮庁舎

主 催:株式会社リコー

共 催:日本科学未来館

協 力:陸前高田市、社団法人日本建築家協会東北支部、大日本印刷株式会社

対 象:岩手県立高田高等学校 2・3年生 39名

※当日取材はNHK、毎日新聞、読売新聞、岩手日報ほか8社、掲載と放送はのべ31枠。



学生復興会議

3. つながりをつくる 8つのネットワーク ⑤

■メディアとのつながり

東日本大震災の影響による臨時休館中のさまざまな科学コミュニケーション活動および開館後の震災関係活動に対し、メディアを通じた積極的な情報発信を行いました。また『「つながり」プロジェクト』においては、メディアと連携したイベントも行いました。

▶臨時休館中、および開館後の震災関連広報活動

- ・掲載件数:298件
- ・広告換算費:277,544,250円
- ・Webにおける情報発信(「Case#3.11」)
一般ポータルサイトで紹介されたほか、NTTの社内教育用WEBコンテンツでの使用、TBSラジオ「鈴木おさむ 考えるラジオ」での解説、郡山市ふれあい科学館での展示、JR車内モニター番組「トレインチャンネル暮らしのエコナビ」で引用されるなど、幅広い波及効果をもたらしました。
- ・科学コミュニケーターによる館外活動への取材:新聞8件、テレビ4件、ラジオ2件、WEB4件
- ・膜天井に関する広報活動
震災により崩落した天井の復旧にあたり、共同研究という形式で新しい発想の天井を採用したことについて積極的にメディアを通して社会に広くアピールしました。
日本科学未来館×東京大学生産技術研究所 研究成果公表記者会見
開催日:2011年6月27日(月)
参加メディア数:18社26名
おもな掲載メディア:NHK 首都圏ネットワーク、首都圏ニュース845(7月27日(水))
日本経済新聞(6月28日(火))、建設通信新聞(6月28日(火))



「SPACE NIO」でのイベントの様子

▶『「つながり」プロジェクト』 広報活動

展示やコンテンツの紹介だけでなく、プロジェクトのミッションについてもメディアへ積極的に展開しました。具体的には、媒体とタイアップしたイベントや、企業に向けてB to B雑誌への掲載などにより、多角的な広報活動に取り組みました。

- ・J-WAVE特別番組「BLUE PLANET」 館長出演
地球環境番組の公開収録に館長 毛利衛が出演。地球環境に対するメッセージとともに、未来館の『「つながり」プロジェクト』などについて説明しました。
放送日:2012年3月5日(月)
- ・「SPACE NIO」でのイベント
日経グループの情報発信空間「SPACE NIO」において、『「地球」～今と未来を考える～』というタイトルのイベントを行いました。Geo-Cosmosに映し出される研究データをもとに科学コミュニケーション専門主任が解説し「つながり」の意義について説明しました。
開催日:2011年9月9日(金)
会場:SPACE NIO(東京・大手町)
登壇者:池辺靖(日本科学未来館科学コミュニケーション専門主任)、江連裕子(日経CNBCキャスター)
参加者:72名
- ▶企画展「世界の終わりのものがたり」メディアタイアップ
企画展のタイトルから展示の内容を知ることが難しい展覧会であるため、内容を掘り下げて伝えられるラジオなどとタイアップし、告知展開を行いました。
- ・朝日新聞 会員サービス「アスパラクラブ」 会員限定内覧会
アスパラクラブのプレミアム会員、一般会員向けに、内覧会を開催。事前告知を朝日新聞紙面、およびWEBサイトに掲載。
開催日:2012年3月9日(金)
参加者:198名
- ・TOKYO FM「シンクロシティ」への出演
「世界の終わりのものがたり」展の問いをリスナーに投げかけ、番組の中で紹介。科学コミュニケーターなどが生出演し、企画展と関連した「終わり」のトークを展開しました。
放送日:2011年3月15日(木)、21日(水)、27日(火)、29日(木)

3. つながりをつくる 8つのネットワーク ⑥

■ 立法府・行政府とのつながり

科学技術基本計画などの国の施策をどのように実現できるか、また日本科学未来館が蓄積した情報をどのように国の施策に反映できるか、立法府との関係を構築しながら、日々の業務をとおして検討・活動しています。2011年度は、主に次のような各国政府関係者が来館されています。



視察の様子(平野文部科学大臣)

[国内]

- ・文部科学大臣 高木義明氏 (2011年6月3日(金))
- ・参議院議員 小坂憲次氏 (2011年6月3日(金))
- ・文部科学副大臣 奥村展三氏 (2011年9月24日(土))
- ・内閣府特命担当大臣(経済財政政策・科学技術政策担当)古川元久氏 (2011年9月24日(土))
- ・経済産業省審議官 羽尾一郎氏 (2011年10月31日(月))
- ・文部科学省 科学技術・学術政策局長 土屋定之氏 (2012年2月11日(土))
- ・財務省主計官 神田真人氏 (2012年2月15日(水))
- ・文部科学政務官 神本美恵子氏 (2012年2月18日(土))
- ・文部科学大臣 平野博文氏 (2012年2月19日(日))

[海外]

- ・ポーランド共和国教育省副大臣 ミロスワフ・シェラチツキ氏 (2011年6月27日(月))
- ・駐日オーストラリア大使 ブルース・ジェームス・ロス・ミラー氏 (2011年9月28日(水))
- ・スイス連邦 外務大臣 ピーター・モーラー氏、駐日スイス大使 ウルス・ブーヘル氏 (2011年9月29日(木))
- ・スリランカ民主社会主義共和国 技術研究大臣 パヴィトラ・ウニアラクチ氏 (2011年9月30日(金))
- ・インド共和国 連邦議会 下院議長 ミーラ・クマール氏 (2011年10月5日(水))
- ・エストニア共和国 祖国レスプブリカ同盟 国会議長 エネ・エルグマ氏、
国会議長補佐官 アンネリ・エントソン氏 (2011年10月5日(水))
- ・イラン・イスラム共和国 文部科学省研究技術担当副大臣
モハンマド・メヘディネジャドヌーリ氏 (2011年10月6日(木))
- ・ガーナ環境・科学技術大臣 ハニー・シェリー・アイター氏 (2011年10月13日(木))
- ・スーダン共和国大統領顧問 ガージー・サッラーフディーン・アタバニ氏 (2011年10月26日(水))
- ・ノルウェー王国産業貿易省副大臣 リッケ・リンド氏 (2011年11月7日(月))
- ・カナダ外務大臣政務官 ディーバック・オブライ氏 (2012年1月19日(木))
- ・チリ共和国大統領 セバステアーン・ピニエラ・エチェニケ氏、同令夫人 (2012年3月29日(木))